

新たな社会参加スケールの信頼性の検証

－日本語版 CIQ-R の開発に向けて－

○ 九州看護福祉大学 増田公香 (2284)

岡田栄作 (法政大学・7500)

キーワード：社会参加，評価スケール，CIQ-R

1. 研究目的

WHO は、2001 年新たな障害概念として ICF(International Classification of Functioning, Disability and Health, 以下「ICF」とする)を提示した。そのような中アメリカの Barry Willer 博士（ニューヨーク大学）等が障害のある方々に対して CIQ(Community Integration Questionnaire, 以下「CIQ」とする)を開発した。CIQ は、家庭統合・社会統合・生産性の 3 サブスケールから構成され、全体で 15 項目で評価される。今から約 20 年前増田は Willer 博士の承諾を得て日本語版 CIQ を開発した。その後日本語版 CIQ は障害福祉分野に留まらずリハビリテーションさらには介護予防の分野等、実践支援現場において広範に使用されるようになってきた。荒井秀典等は「CIQ は ICF における参加を評価する質問紙であり、社会参加の指標をレビューした研究において、最も多く使用された指標である。」（「介護予防ガイド（平成 31 年度厚生労働科学研究費長寿科学政策研究事業）」としている。

近年オーストラリアの Callaway, L. は、CIQ の開発者である Willer, B. と共に従来の CIQ に SNS による電子ソーシャルネットワークを加え 18 項目 35 点満点で評価する CIQ-R (Community Integration Questionnaire Revised, 以下「CIQ-R」とする)を開発した。現在 CIQ-R をもちいた様々な研究がオーストラリアを中心に展開されている。本研究では、日本語版 CIQ-R の開発に向け、その信頼性について障害のある方々及び健常者に対し検討することをその目的とする。

2. 研究の視点および方法

1) 研究の視点

本研究は CIQ-R の信頼性に関して、障害のある方々及び健常者に対して一定期間をおいた再検査法により検討し、CIQ-R 総得点及び下位尺度別の級内相関係数(以下、ICC)を算出した。

2) 方法

a. 対象：本研究の対象者は九州内 A 市に在住する障害のある方々 50 名及び健常者 52 名とした。障害のある方々に関しては、施設入所者 25 名・デイサービス利用者 15 名・就労継続支援 B 型利用者 10 名とした。

b. 調査実施時期：障害のある方々に対しては、2024 年 12 月 23 日から 2025 年 1 月 30 日とし、健常者に対しては、2024 年 10 月 4 日から 11 月 16 日とし、各々初回調査日の 2 週

間後に再調査を実施した。

c. 調査方法：障害のある方々に対しては自身での記載が可能な10名に対しては記名式自記式質問紙を用いた配票調査を実施し、自身での記載が困難な40名については記名式質問紙を用いた聞き取り調査を実施した。健常者に対しては記名式自記式質問紙を用いた配票調査とした。

3. 倫理的配慮

本研究は九州看護福祉大学研究倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号06-010)。本報告に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はない。

4. 研究結果

対象者の有効回答数は、障害のある方々35名(70.0%)・健常者50名(96.1%)であった。基本属性の性別は障害のある方々は男性22名(60.0%)、女性14名(40.0%)、健常者の性別は男性16名(32.0%)、女性34名(68.0%)で、平均年齢は障害のある方々は56.1±15.2歳、健常者は52.2±22.1歳であった。

障害のある方々のCIQ-R総得点及び各下位尺度のICCについて全体では、CIQ-R総得点0.70、家庭統合0.55、社会統合0.40、生産性統合0.79、電子ソーシャルネットワーク0.77であった。年齢区別にみると、生産年齢人口では、CIQ-R総得点0.84、家庭統合0.61、社会統合0.63、生産性統合0.85、電子ソーシャルネットワーク0.95であり、老年人口ではCIQ-R総得点0.13、家庭統合0.51、社会統合0.04、生産性統合0.60、電子ソーシャルネットワーク-0.04であった。

健常者のCIQ-R総得点及び各下位尺度のICCについて全体では、CIQ-R総得点0.66、家庭統合0.83、社会統合0.51、生産性統合0.74、電子ソーシャルネットワーク0.44であった。年齢区別にみると、生産年齢人口では、CIQ-R総得点0.64、家庭統合0.81、社会統合0.58、生産性統合0.72、電子ソーシャルネットワーク0.49であり、老年人口ではCIQ-R総得点0.76、家庭統合0.89、社会統合0.27、生産性統合0.57、電子ソーシャルネットワーク0.28であった。

5. 考察

CIQ-R総得点の信頼性に関しては再検査法の結果、障害のある方々及び健常者ともICCによる高い結果が得られた。しかしながら、年齢区別にみると65歳以下では障害のある方々及び健常者とも高い結果がみられたが、65歳以上について健常者は高い結果が得られたが、障害のある方々に関してはかなり低い結果となった。ことに電子ソーシャルネットワーク項目がかなり低い結果となった。その要因として、インタビュー調査における質問方法の問題点、あるいは障害特性等の影響が考えられる。CIQ-Rの開発者であるCallaway, L.によるとオーストラリアでは65歳以上に対する調査を行ったことはないとのことで、今後CIQ-Rの適用範囲について詳細な分析が必要であると考えられる。

本研究はJSPS科研費JP24K05438で実施した。